

平成 25 年 9 月 3 日

## 「平成 25 年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等」の公表

総務省では、青少年のインターネット・リテラシーに関する実態調査を実施し、結果概要を「平成 25 年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等」として取りまとめましたので、公表します。

## 1 経緯・目的

総務省では平成 23 年度、インターネット・リテラシー向上施策の重要性に鑑み、今後同施策を効果的に進めていくために、青少年のインターネット・リテラシーを可視化するテスト等を開発しました。

今年度は昨年度に引き続き青少年のインターネット・リテラシーを測るテストを、全国の高等学校 1 年生相当（約 3500 名）に対し、アンケートと共に行い、結果を集計・分析して青少年のインターネット・リテラシーの実態を明らかにし、「平成 25 年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等」として、別添のとおり取りまとめました。

## 2 調査結果のポイント

- ・ 青少年全体の正答率は 69%と昨年度（67%）より 2 ポイント上昇。
- ・ スマートフォン保有者は全体の 84%と昨年度（59%）より大幅に上昇。また、インターネットに接続する際、最もよく利用する機器についても、スマートフォンが全体の 75%と昨年度（48%）より大幅に上昇。
- ・ 1 日あたりの平均使用時間は、スマートフォン以外の機器は「30 分未満」が最も多いが、スマートフォンは「2 時間以上」が最も多い（56%）。
- ・ アプリケーションのインストール数が 10 以上である青少年は全体の 68%にのぼるのに対し、実際にひと月に 1 回以上使用しているアプリケーション数が 10 以下である青少年は全体の 74%。また、アプリケーションの情報漏洩の危険性について認知していない青少年が全体の 33%存在。
- ・ 最もよく利用するインターネット接続機器別に整理すると、PC をよく利用する青少年の正答率が最も高い（73%）。一方、スマートフォンをよく利用する青少年の正答率は相対的に低く（68%）、そのうちスマートフォンのみを保有している青少年の正答率はさらに低い（64%）。
- ・ インターネット上のリスクについて学習意欲がある青少年の正答率は 71%で、学習意欲がない青少年（64%）より正答率が相対的に高い。また、インターネット上のリスクについて学習経験がある青少年の正答率は 70%で、学習経験がない青少年（64%）より正答率が相対的に高い。
- ・ 家庭でインターネット上のリスクについて話し合いをしている青少年の正答率は 72%で、話し合いをしていない青少年（68%）より正答率が相対的に高い。

※ 「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標」＝ILAS（Internet Literacy Assessment indicator for Students）。インターネット・リテラシーの中でも、特に、インターネット上の危険・脅威への対応能力やモラルに配慮しつつ、的確な情報を判断するために必要な能力を、3つの大分類、7つの中分類に整理し、それぞれに対応する多肢選択式問題を作成。数値化することにより、各能力を可視化した。

連絡先：総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課  
（担当：橋本課長補佐、三浦官）  
電話：03-5253-5111（代表） 5843（直通）  
FAX：03-5253-5948

# 平成25年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等

---

平成25年9月

総務省総合通信基盤局消費者行政課

# 1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標 - ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) -

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が急務。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）の提言（平成23年10月）を受け、リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを開発。
- 協力を得られた学校等において、平成25年6月から7月にかけて実際にテストを行い、その結果を「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標（ILAS:アイラス）」として集計・分析・比較した。
- ILASは、地域での周知啓発活動や、事業者による安心安全サービスの提供・改善に役立てるとともに、OECD等における国際的な指標づくりに対して我が国からインプットしていく。

## ■ 「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（平成21年4月1日施行）

### 【基本理念】

- ① 青少年の適切なインターネット活用能力の習得（インターネット利用に係るリテラシー向上）、② 青少年の有害情報の閲覧機会の最小化（フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組み）、③ 民間による自主的・主体的取組、国等による尊重・支援

## ■ 利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）提言（平成23年10月）

### 2. 各関係者に求められる役割等（中略）

行政には、（特にインターネット上の危険への対処に係る）インターネットリテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められている。

## ■ 青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有識者検討会（座長：赤堀侃司白鷗大学教授）（平成23年9月～24年3月）

教育工学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。

（顧問）堀部政男（一橋大学名誉教授）、渡部洋（東京大学名誉教授）（座長）赤堀侃司（白鷗大学教育学部長・教授）、（座長代理）新井健一（ベネッセ教育研究開発センター長）

## ■ 利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（スマートフォン時代における安心・安全な利用環境の在り方に関するWG）提言案（平成25年7月）

第三部第3章スマートフォン時代に適応したリテラシー向上の取組（1）（中略）

（1）インターネット・リテラシー指標（ILAS）の更なる展開、（2）地域における自立的な周知啓発活動の展開、（3）リテラシー向上に関する国際的な調和の推進

## 2. ILASの実施概要等

### ○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

OECDのインターネット上の青少年保護に関するレポートにおけるリスク分類をベースに、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力(リスク対応能力)に関し、前記有識者検討会において以下の項目に整理)

#### 【青少年に必要なリスク対応能力】

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力
  - a. 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
  - b. 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力
  - a. 情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
  - b. 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
  - c. 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力
  - a. プライバシー保護を図り利用できる。
  - b. 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

### ○ テスト及びアンケート調査の実施概要

平成25年6月から7月にかけて、全国24の公立・私立の高等学校等において、約3500名の1年生相当を対象にテストを実施。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

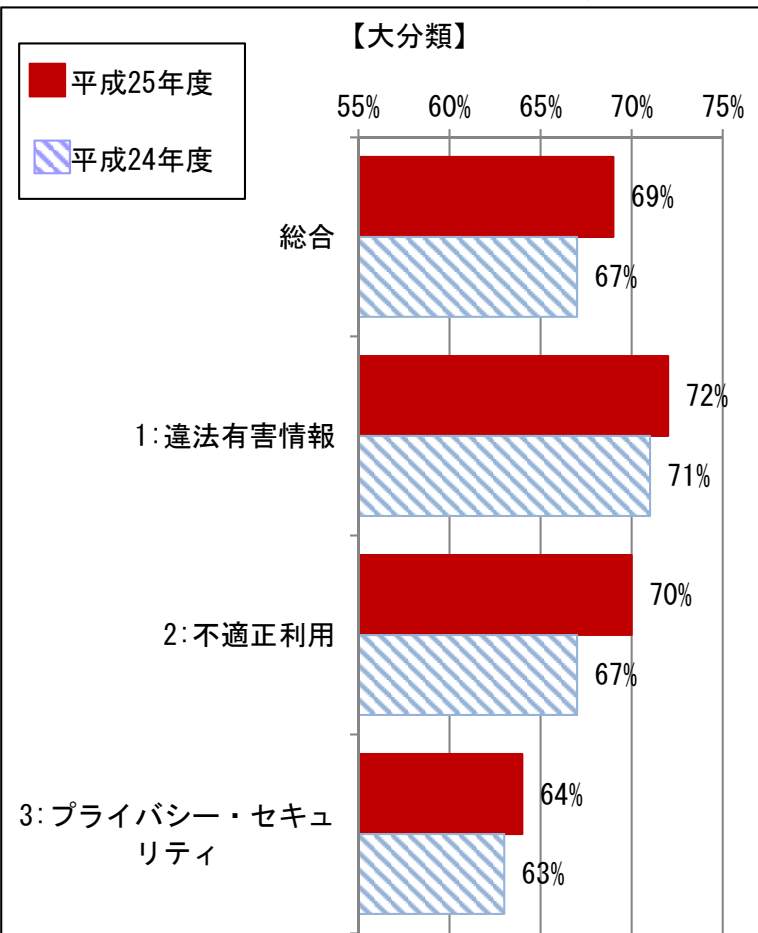
地域数	所在地区分	校種	人数	平均点
計11地域	特別区等 5校	国立 2校	男 2,041人	男 33.3点
	中核市 9校	県等立 15校	女 1,420人	女 34.6点
	その他 10校	私立 7校	(不明 51人)	
	計 24校		計 3,512人	全体 33.8点(49点満点) (100%換算で約69%)

# 3. ILASの結果

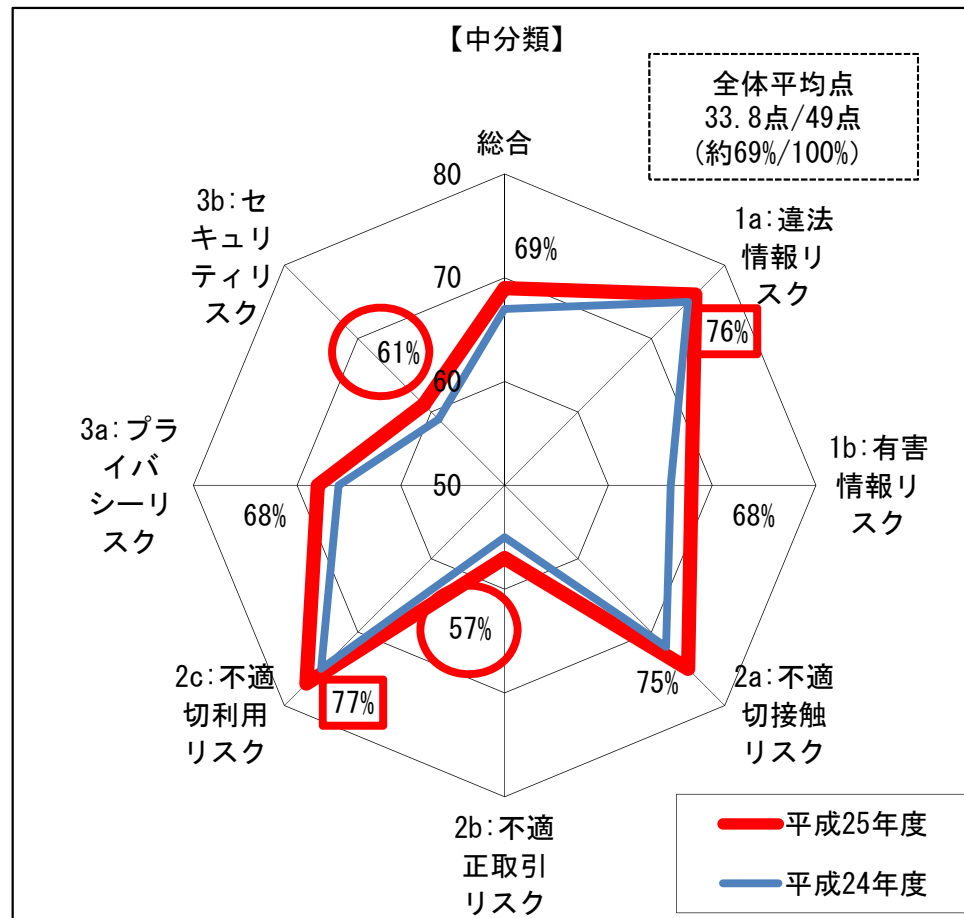
## テスト結果の全般的評価

- 全ての分類において平成24年度より平均点が向上。全体的にリスク対応能力の向上がみられる。
- 平成24年度と同様に違法情報への対応（違法コンテンツの問題を理解し、適切に対応できる。）（1a.）と料金や時間の浪費への配慮（2c.）に関する能力が相対的に高い。
- 適切な商取引（電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる能力。（注1））（2b.）と適切なセキュリティ対策（適切なセキュリティ対策を講じて利用出来る能力。（注2））（3b.）に関する能力が相対的に低い。

➡ **引き続き弱点分野について啓発が必要**



	平成25年度	平成24年度
人数	3,512人	2,464人
総合	69%	67%
1a: 違法情報リスク	76%	75%
1b: 有害情報リスク	68%	66%
2a: 不適切接触リスク	75%	72%
2b: 不適正取引リスク	57%	55%
2c: 不適切利用リスク	77%	75%
3a: プライバシーリスク	68%	66%
3b: セキュリティリスク	61%	59%

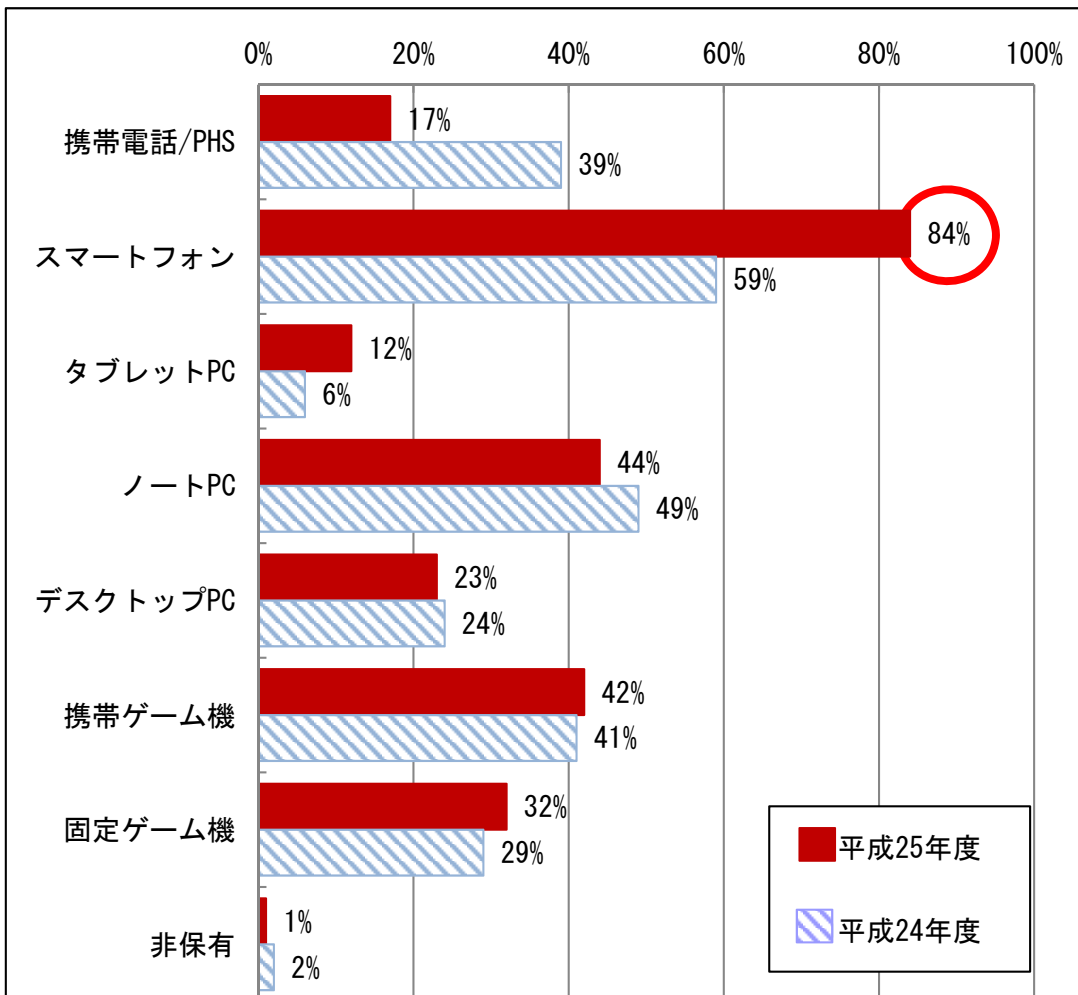


（注1）オンライン決済や基本的な技術的事項（暗号、ドメイン）について、より適正な知識・対応が求められる。

（注2）適切なウィルス対策について、より適正な知識・対応が求められる。

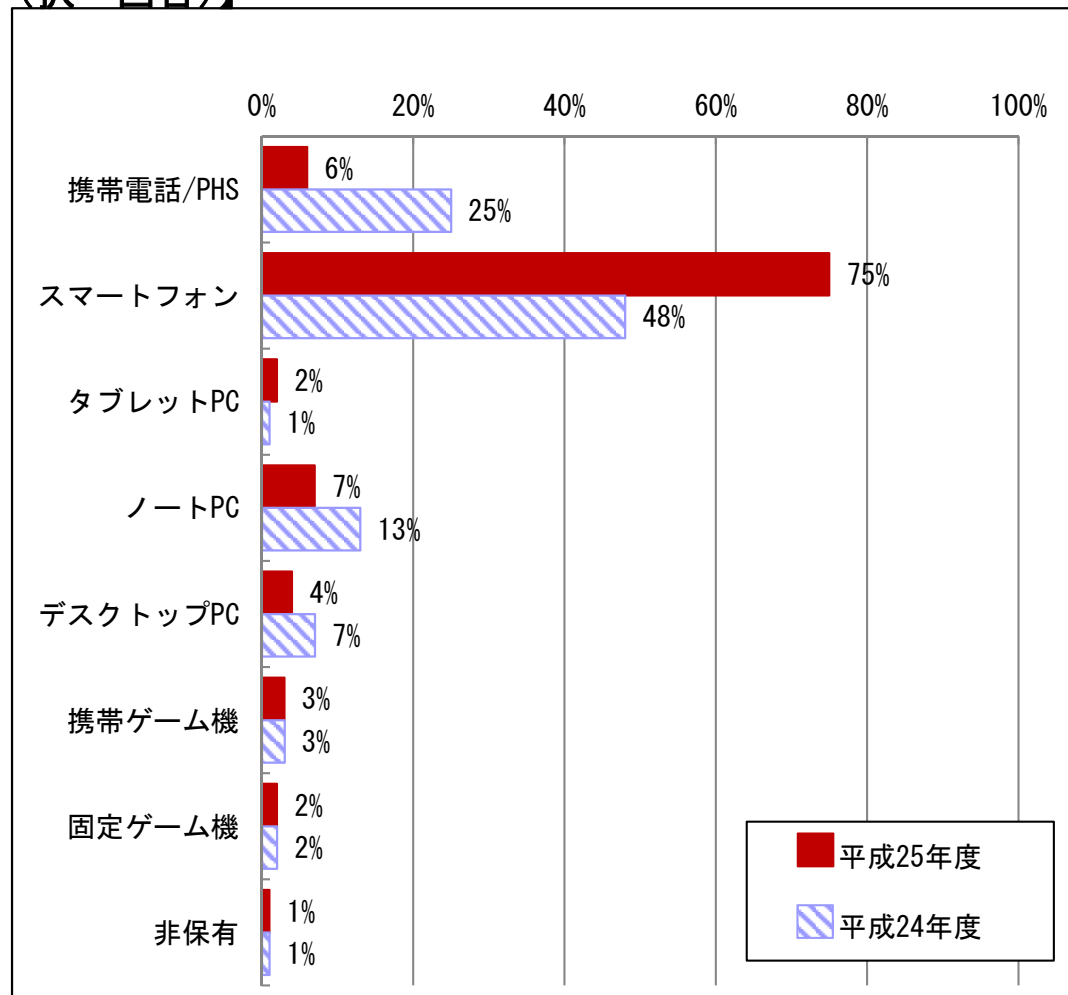
## 4. 青少年の利用機器の現状

【保有するインターネット接続機器(複数回答)】



- ・ 青少年の99%がインターネット接続機器を保有。
- ・ スマートフォン保有者は昨年度(59%)から大幅に増加(84%)。一方、携帯電話/PHSは大幅減(39%→17%)

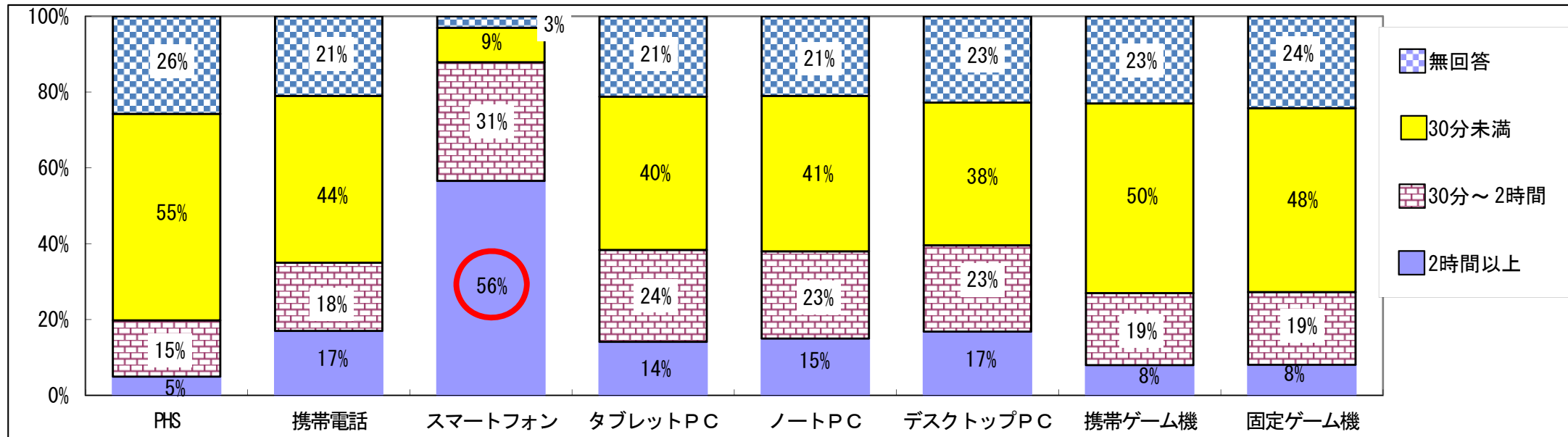
【インターネットに接続する際、最もよく利用する機器(択一回答)】



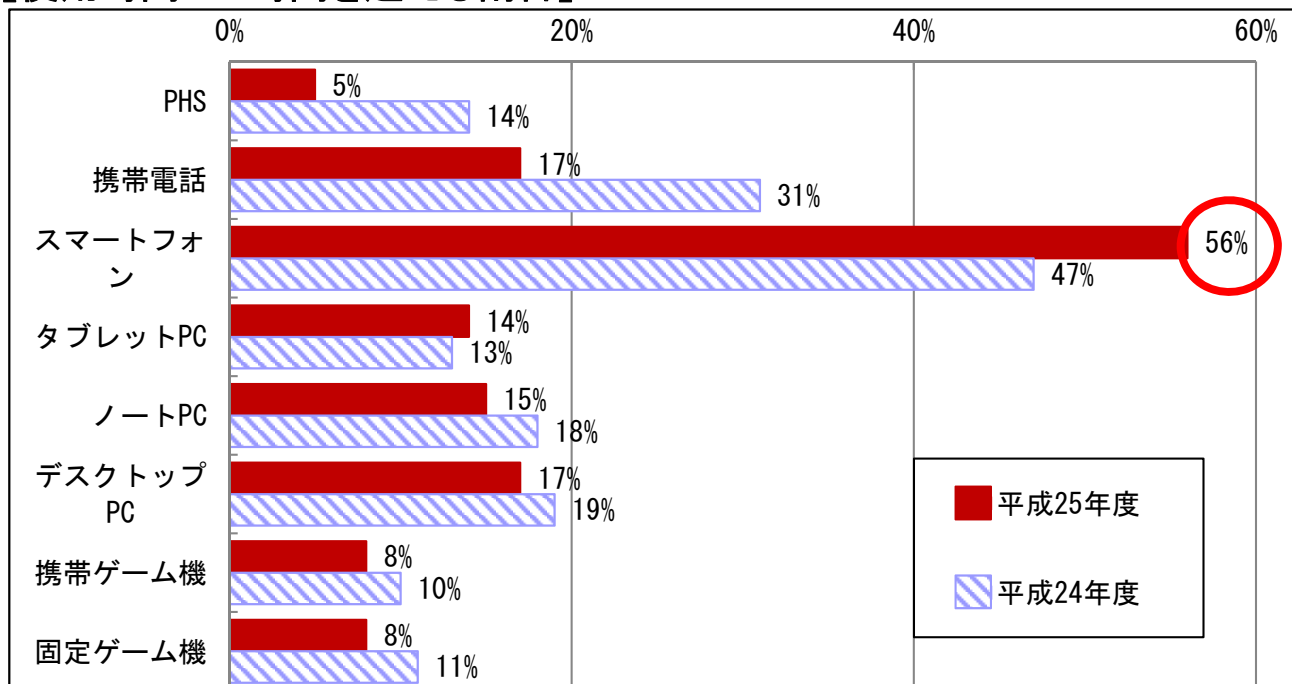
- ・ インターネットに接続する際、スマートフォンを最もよく利用する青少年が大幅増(48%→75%)。
- ・ 携帯電話/PHSの利用は大幅減(25%→6%)となり、ノートPCを下回った。

## 5. 青少年のインターネット利用状況

### 【機器別1日の平均使用時間】



### 【使用時間が2時間を超える割合】

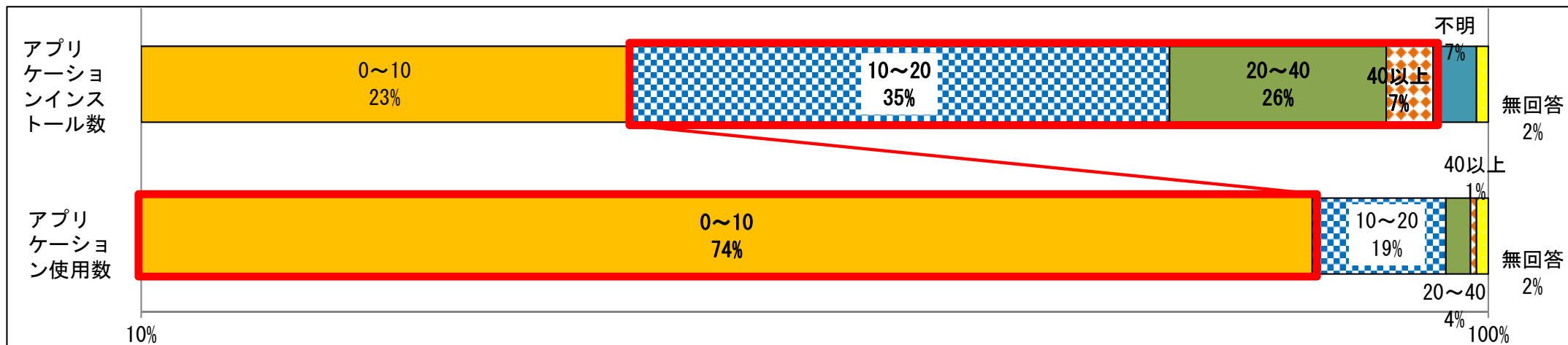


・ 1日あたりの平均使用時間はスマートフォン以外は30分未満の使用時間が最も多いが、スマートフォンについては「2時間以上」が最も多く、半数を超えている (56%)。

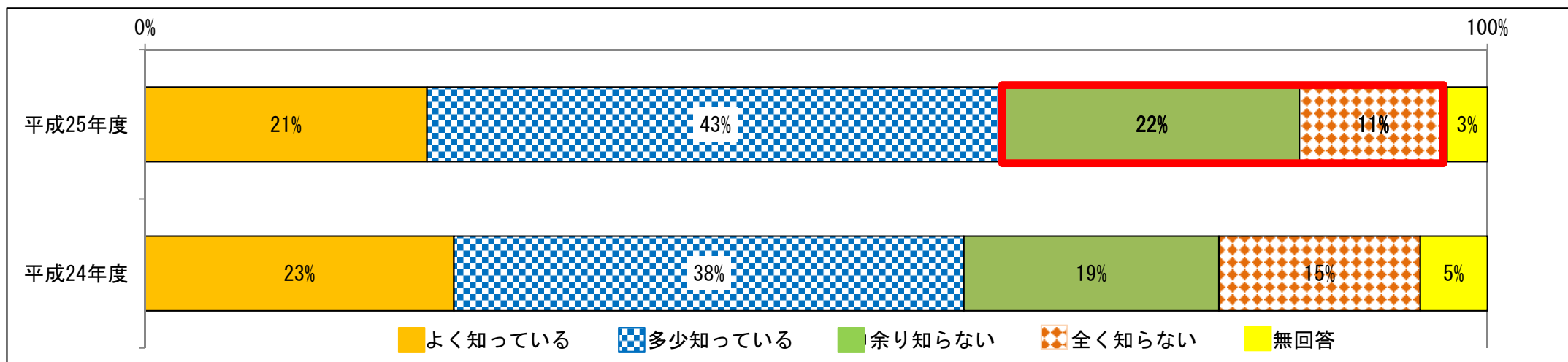
・ 多くの機器において「2時間以上」使用する者の割合は減少しているが、スマートフォンについては大幅増加傾向 (47%→56%)。タブレットPCは微増 (13%→14%)

## 6. 青少年のスマートフォンのアプリケーションの利用状況

### 【アプリケーションのインストール数と使用数】



### 【アプリケーションに情報漏洩の危険性があることの認知度】



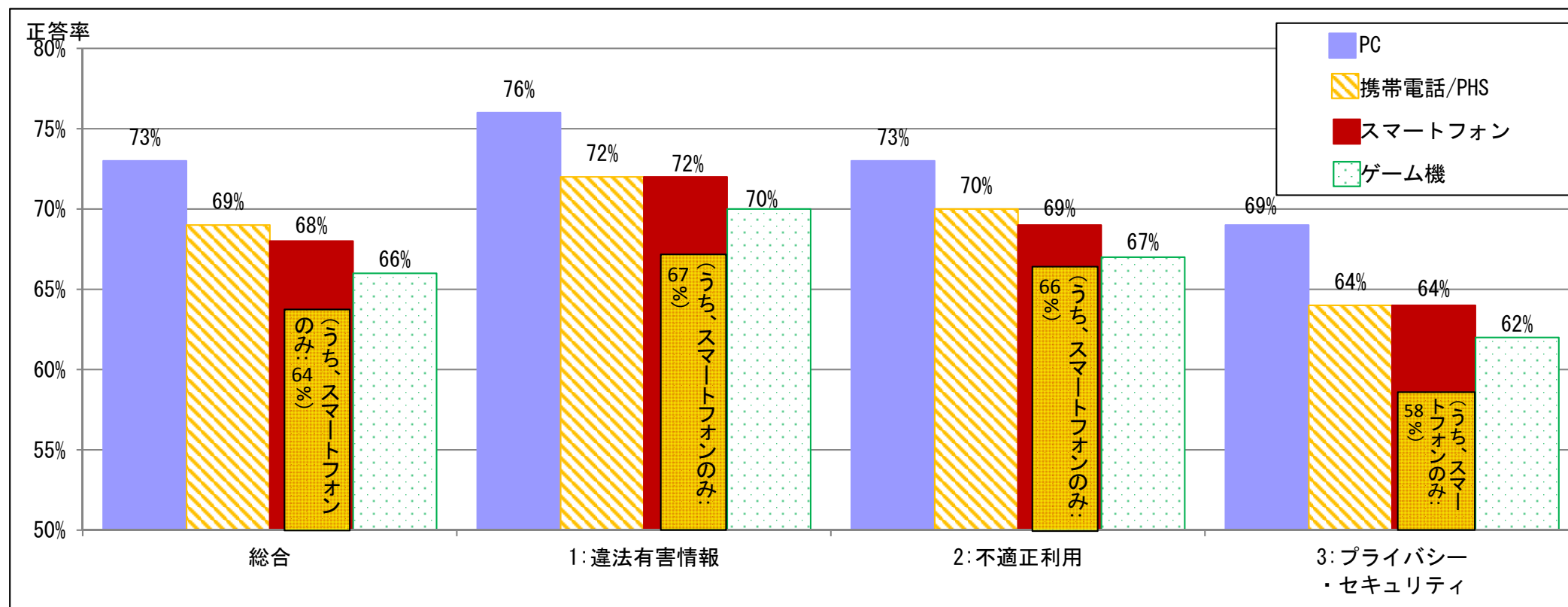
- ・アプリケーションのインストール数は10~20が35%と最も多く、10以上インストールしている割合は68%にのぼる。その一方、1月に1回以上使用しているアプリケーションは10以下である割合が74%である。
- ・アプリケーションに情報漏洩の危険性があることを知っている割合（よく知っている+多少知っている）は向上した（61%→64%）が、33%（余り知らない+全く知らない）は依然これを認知していない。

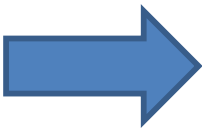


## 7-1. ILAS指標とアンケート結果との現状分析1

### 1. スマートフォンをよく利用する青少年のリテラシーが相対的に低い。

- ・インターネット接続において最もよく利用する機器別で比較したところ、PCをよく利用する青少年の正答率が一番高い。
- ・特にスマートフォンのみ保有している青少年の正答率は低い。



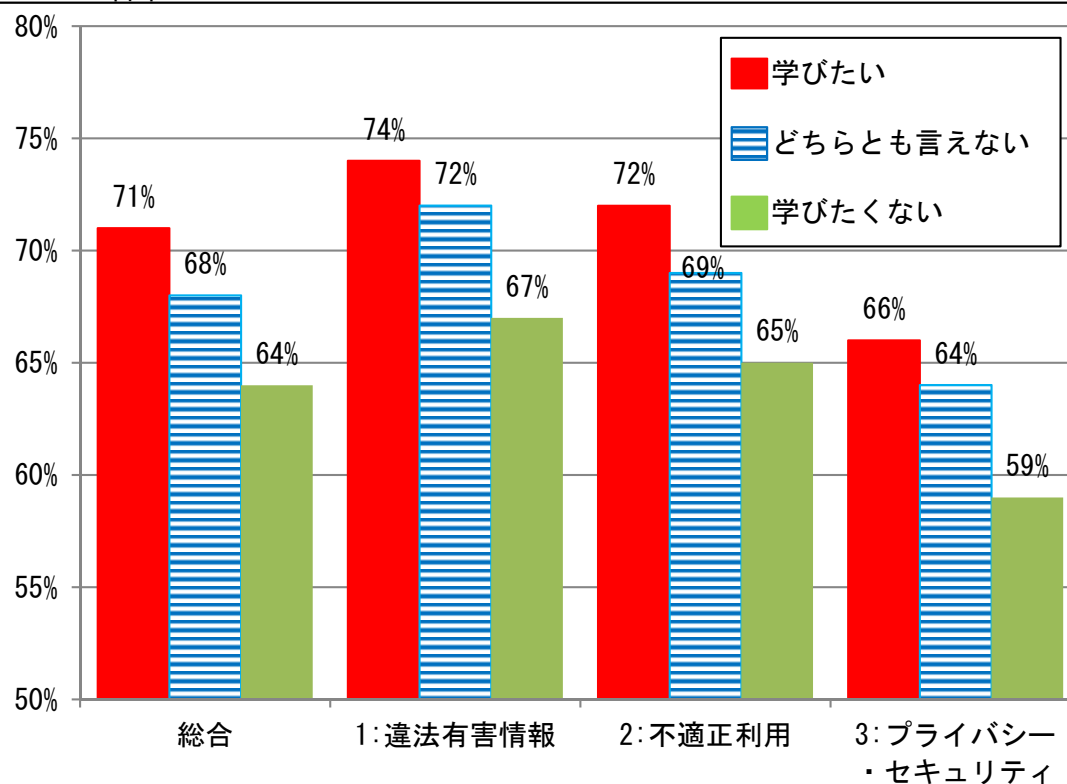

 スマートフォンは手軽にインターネット接続できる一方で、特に高いリスク認識、対応能力のないまま利用しているとみられ、スマートフォンに関するリテラシーの向上が急務。

## 7-2. ILAS指標とアンケート結果との現状分析2

### 2. インターネット上のリスクについて学習意欲がある青少年のリテラシーが高い。

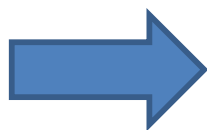
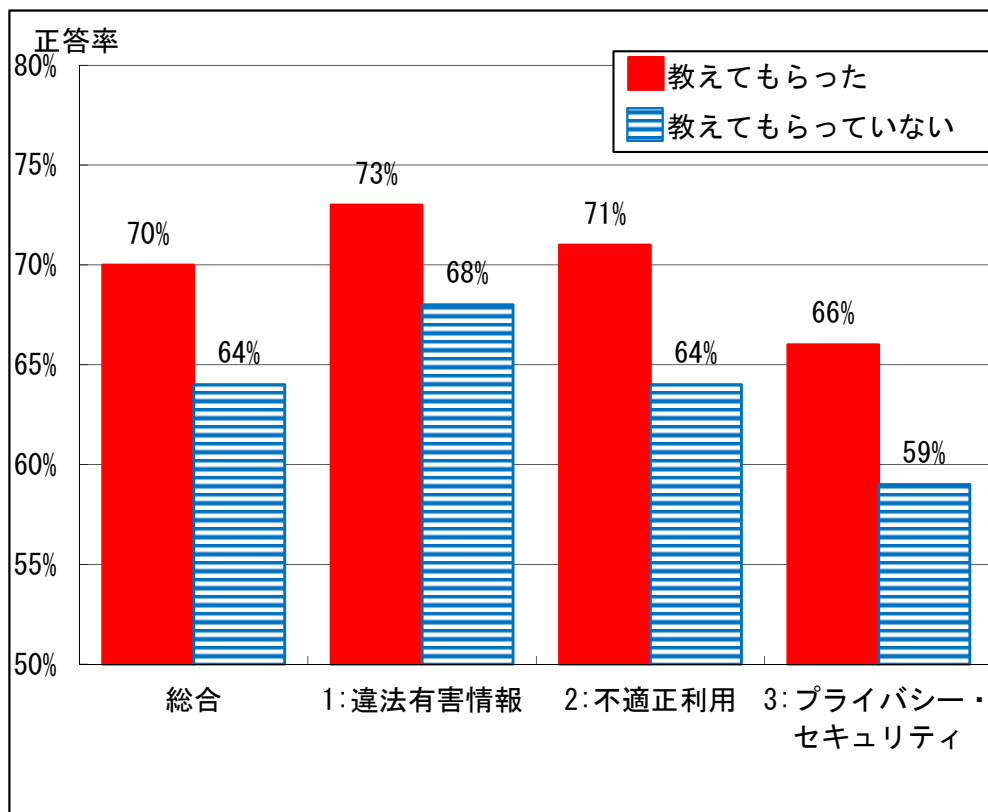
・インターネット上のリスクに関して学習の意欲について聞いたところ、学習意欲がある青少年の正答率が高い。

正答率



### 3. インターネット上のリスクについて学習経験がある青少年のリテラシーが高い。

・インターネット上のリスクに関して学習(通常授業+特別授業等)の経験があるかどうかをアンケートで聞いたところ、学習経験がある青少年の正答率が高い。

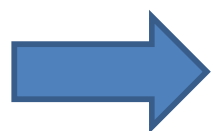
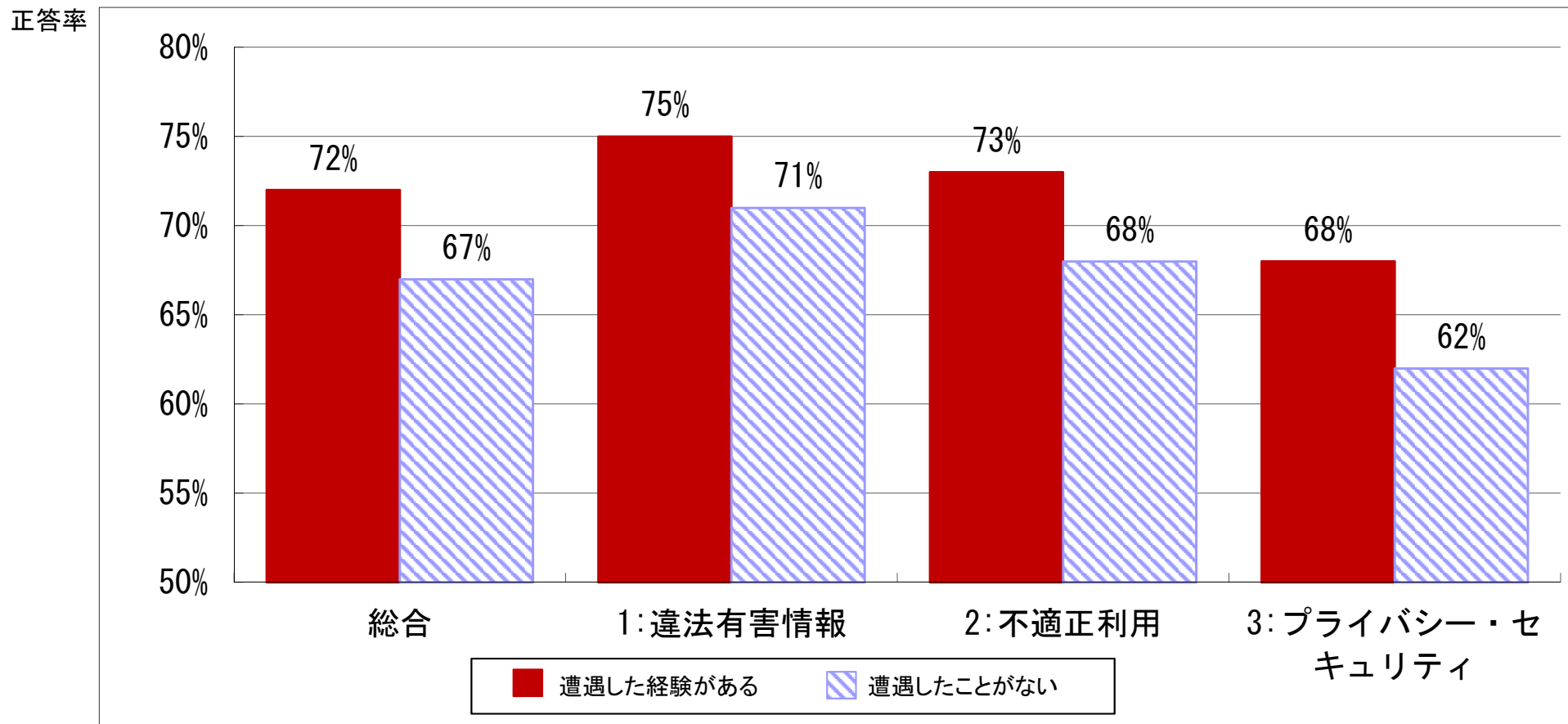


・インターネット上のリスクに関する学習の意欲付け及び機会を提供することが重要。  
 ・学習意欲を醸成する環境作りや学習機会を増やすため教員等教える立場への啓発も重要。

## 7-3. ILAS指標とアンケート結果との現状分析3

### 4. トラブルに遭遇した経験のある青少年のリテラシーが高い。

・トラブルに遭遇したことがあると回答した青少年の方が、遭遇していないと回答した青少年より正答率が高い。

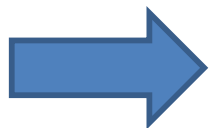
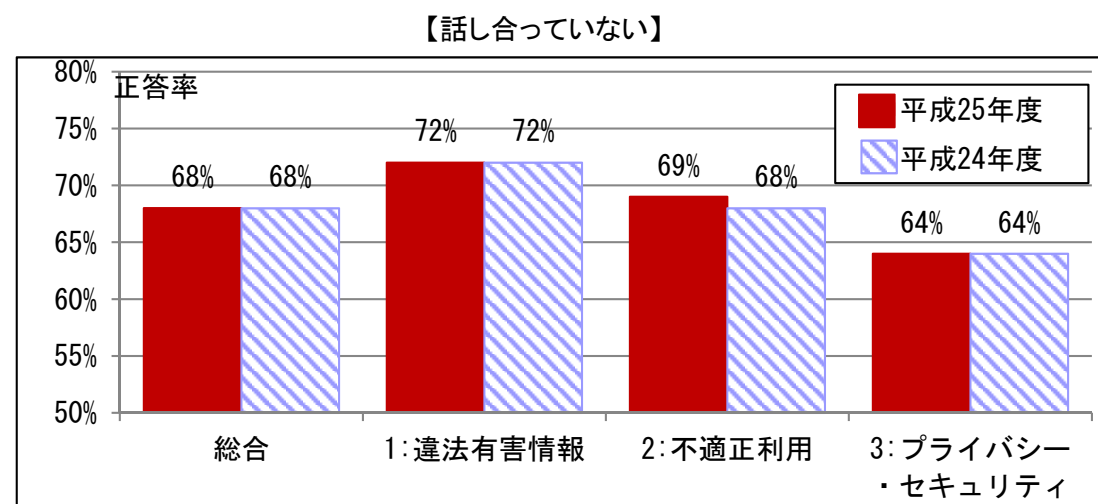
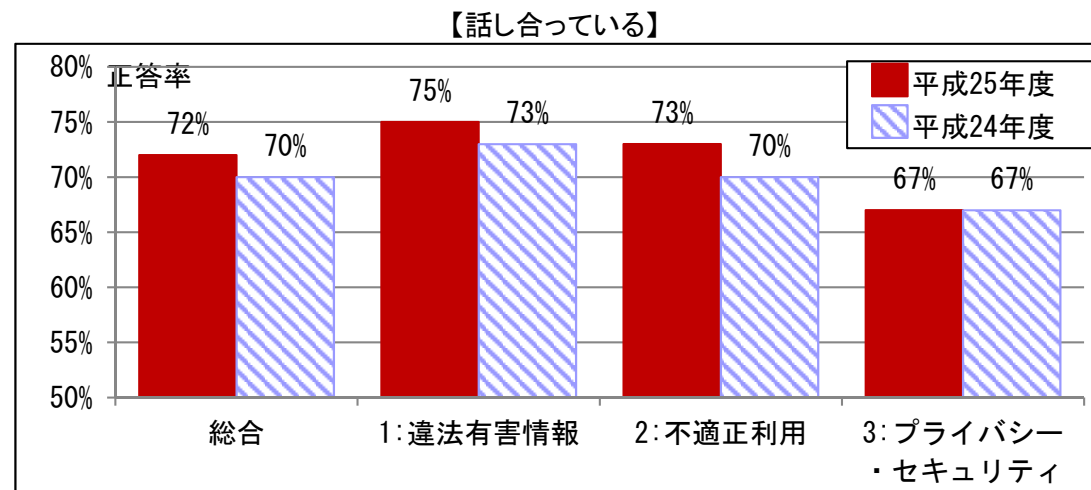
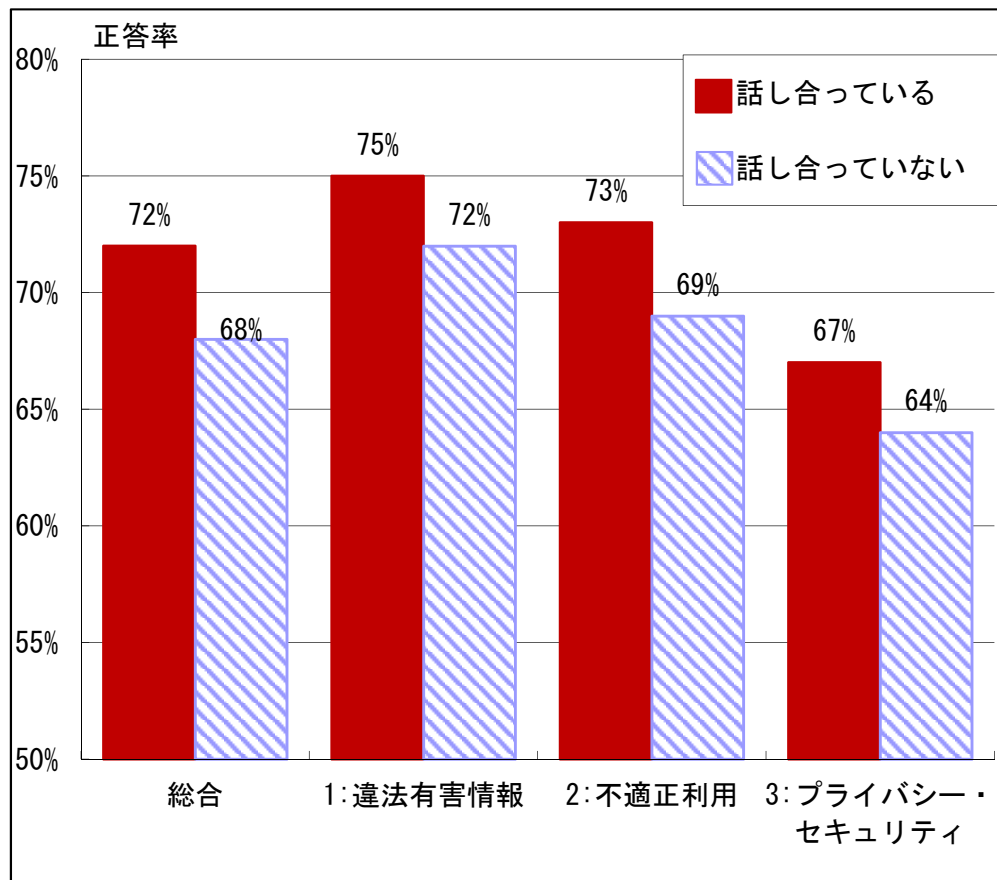


トラブルに対処する経験を持つことによって、リスク対応能力が高まると考えられることから、インターネットを使いながら学ぶことが有効。その際には、保護者等の適切な指導や学習機会の提供が重要。

## 7-4. ILAS指標とアンケート結果との現状分析4

### 5. 家庭で話し合いをしている青少年のリテラシーが高い。

- ・家庭でインターネット上のリスクについて話し合いをしている青少年の正答率が、話し合いをしていない青少年よりいずれの分野においても正答率が高い。
- ・家庭で話し合っている青少年は昨年度より正答率が高いが、話し合っていない青少年は昨年度とほぼ同じ。



保護者への啓発を推進することで、家庭での話し合いを喚起していくことが重要。